

分かち書きと改行について

プランのオリジナル文例集では、英文をもとにタイ側で作成した文章を日本で編集するという形がとられたようです。そのため、タイでタイ語が書かれる際に「分かち書き」がなされず、日本で編集される際には、単純に適当な長さで区切って「改行」してしまうという問題が生じました。

タイ人にとって、「分かち書き」は意外と難しいようです。私がチャイルドに手紙文の「分かち書き」を要求しても、なかなか期待どおりにしてくれませんでした。これは日本人や中国人に「分かち書き」を要求するのと同じなのかもしれません。タイ語を外見だけから英語に類するものと決めてかかっているわけではないのです。

もちろん、日本語もタイ語も、英語同様に「単語」という概念があるわけで、「分かち書き」ができない言葉ということではありません。ただ、日本人に、「一単語ごとに一マス空けて書きなさい」というと、たちまち筆が遅くなってしまうことでしょう。実際には、日本人もタイ人も、続けて書くことに慣れているため、「分かち書き」には余分な思考が必要になるわけです。

この文例集につけた単語集は一語一訳が原則ですが、文例の中で可能な限り長くまとめて訳すこととしました。そのため、本来は二語、三語で熟語となるところを、一つの単語のように見せかけている場合があります。たとえば、「人」、「日本」という語はそれぞれ一語ですが、くっつけた「日本人」も一語とします。

英語で説明すると、「my (私の)」+「home (家)」は「my home (我が家)」という一単語となりますが、このとき、「my」と「home」の間にスペースが無くなるのが、英語の「熟語」と大きく異なる点です。

このようにした上で、単語と単語の間にスペースを空けた分かち書きをしてあります。

「分かち書き」の目的は、単語の差し替えに都合がよいということもありますが、なにより、正しい改行位置を知ることにあります。最悪の場合、一つの音が分断されてしまうということも考えられるからです。たとえば、日本語の場合でも、「外」の字が真ん中で切られ、行末に「夕」、行頭に「ト」と書かれてあったらとても読めません。「に」が「し」と「こ」に分かれるかもしれません。タイ語は母音文字と子音文字の組み合わせが英語よりも複雑なため、このような事例が非常に起きやすいのです。そして実際、プランの文例集にはそのような箇所が存在していて、それを何とかしようというのが、この文例集編集のそもそもの動機でした。

つまり、文例を安心してまる写しするためには、「ここでなら改行してかまわない」という場所がはっきり示されていなければなりません。それが単語と単語の間にスペースを入れて書く「分かち書き」の意味なわけです。

なお、実際に文として書く場合には、「分かち書き」にする必要はありません。保存用には「分かち書き」したものを残し、チャイルドへの手紙は、空白を取り去ったものを送る、ということでもよいと思います。

ただし、タイ語は英語のように文頭を大文字にしたりはできませんし、句読点も無いため、文と文の切れ目では十分なスペースを空けるか、改行をしておくほうが無難です。